

発行日 2024年10月20日

環境経営レポート

【レポートの対象期間:2023年9月～2024年8月】

株式会社 日本オーエスジー

《ご挨拶》

株式会社日本オーエスジーは1982年創業以来、工業用ゴム加工を主体として歩んでまいりました。平成元年に当地芳賀東部工業団地に移転し、機械、機器部品メーカーとして信頼される企業を目指しております。企業の規模も拡大の方向にあり、平成26年に社屋を増設し、変革は環境に与える影響が大きい事を受け止め、環境方針を基に、環境活動を展開し、地球環境に優しい企業として環境への配慮も企業活動の大きな役割としてとらえ新たな一步を歩み出しました。この度の取り組みをご高覧の上、ご指導、ご指摘をいただき次の環境活動に生かして行きたいと存じます。

株式会社 日本オーエスジー
代表取締役社長
大嶋 桂吉

《目次》

1. 環境経営方針	P-1
2. 事業活動の規模	P-2
3. EA21推進体制	P-3
4. 環境経営目標とその実績	P-4
5. 環境経営計画の取組計画と評価	P-5
6. 環境関連法規制の遵守	P-6
7. 代表者による全体の評価と見直し・指示	P-6

1. 環境経営方針

【基本理念】

株式会社日本オーエスジーはかがえのない地球環境を守る事が人類共通の最重要課題と認識し、全ての事業活動を通じて地球環境に配慮した事業活動に努めます。

【基本方針】

当社の主力事業である、工業用ゴム製品の加工、製作から各領域に於いて、技術的、経済的な事情を考慮の上、環境マネジメントシステムを構築し環境負荷を軽減するとともに環境に配慮した継続的な活動を展開します。

1. 環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げ取り組みます。

- ①事務所、設備に関わる電気及び自動車に関わる化石燃料の削減に努めます。
- ②事業活動で発生する廃棄物は発生を抑制するとともにリサイクルの向上に努めます。
- ③限りある水は、節水に努め、使用量削減に努めます。
- ④環境に配慮した購買及び製造に努めます。

2. 環境関連法、環境関連規制を遵守致します。

3. 当社の環境への取組は、社内外に公表し地域社会とのコミュニケーションを図ります。

2019年9月10日
株式会社 日本オーエスジー
代表取締役社長
大嶋 桂吉

2. 事業活動の規模

1. 事業所及び代表者名

株式会社 日本オーエスジー
代表取締役社長 大嶋 桂吉

2. 所在地

本社 〒371-0122 群馬県前橋市小坂子町921-6
倉庫 〒371-0216 群馬県前橋市粕川町込皆戸275-8

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役 大嶋 桂吉
環境管理責任者 : 営業部 課長 井上 聡宏
担当 : E A 2 1 事務局 吉澤 里美
TEL : 027-269-8385
FAX : 027-269-8376

4. 対象範囲

株式会社日本オーエスジー 全組織及び全活動

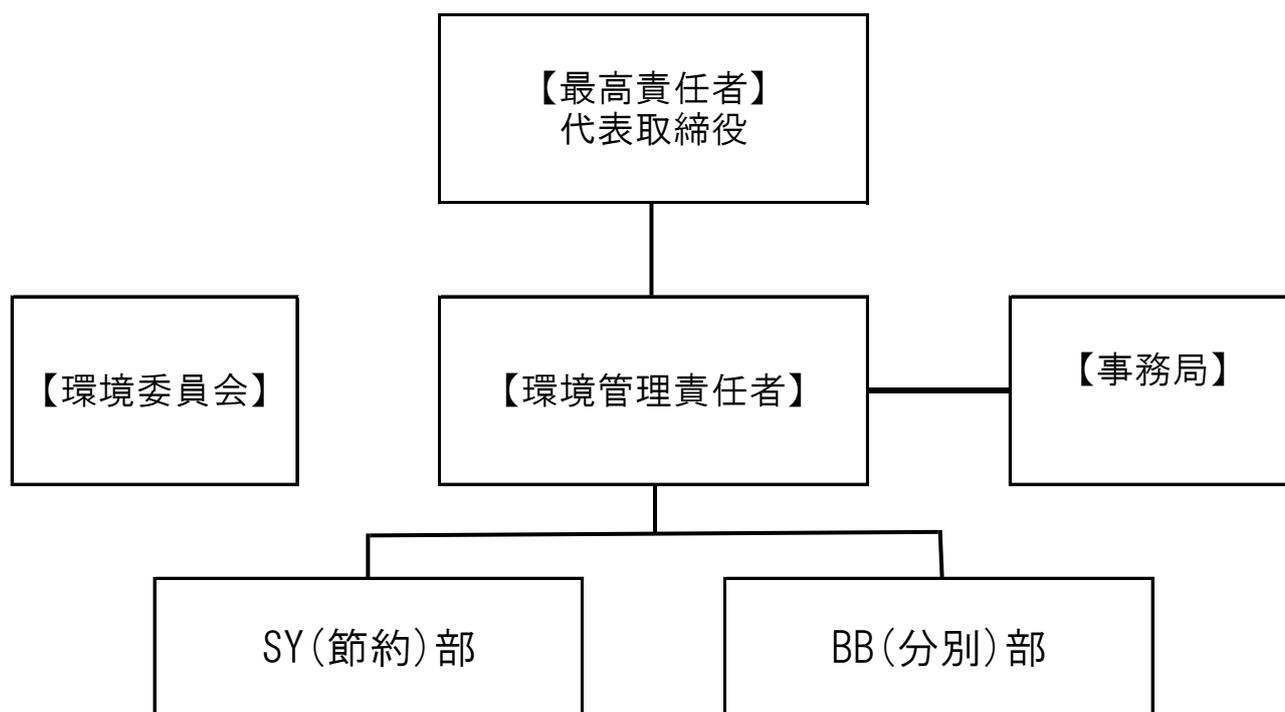
5. 事業の内容

工業用ゴムの加工、販売

6. 事業規模

活動規模	単位	2022年9月～ 2023年8月	2023年9月～ 2024年8月
売上高	百万円	273	243
従業員数	人	20	23
延べ床面積	m ²	1,960	1,960

(株)日本オーエスジー エコアクション21 推進組織図



職名	役割
最高責任者	<ul style="list-style-type: none"> ①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③環境経営方針を制定する。 ④エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境経営方針・環境経営目標をはじめシステム全体の見直し・指示を行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ①事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。

4. 環境経営目標とその実績

1. 環境目標とその実績

*購入電力の排出係数は、0.474kg-CO₂/kWh(東京電力平成28年実績)を使用しています。

環境目標	基準値		今年度目標		中長期の目標	
	2021年度	2023年9月～2024年8月		2024年9月～2025年8月	2025年9月～2026年8月	
	実績	目標	実績	達成状況	目標	目標
①売上高100万円当たりの二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂ /百万円)	269.18	2021年実績に対して2%削減	291.40	8.27% 未達成	2021年実績に対して3%削減	2021年実績に対して4%削減
②売上高100万円当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万円)	25.15	2021年実績に対して2%削減	29.93	19.01% 未達成	2021年実績に対して3%削減	2021年実績に対して4%削減
③売上高100万円当たりの水資源投入量の削減(m ³ /百万円)	2.246	2021年実績に対して2%削減	2.165	-1.60% 達成	2021年実績に対して3%削減	2021年実績に対して4%削減
④売上高100万円当たり混合廃棄物の削減(Kg/百万円)	20.285	2021年実績に対して2%削減	24.938	24.9% 未達成	2021年実績に対して3%削減	2021年実績に対して4%削減

2. 主な環境負荷実績

環境への負荷	2021年9月～2022年8月	2023年9月～2024年8月
①二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	75640	70819
②廃棄物排出量(kg)	7066	7272
③水資源投入量(m ³)	631	526

5. 環境経営計画の取組みと評価

* 2023年9月～2024年8月の活動の取組みと評価をしております。

環境経営計画	環境経営計画の取組結果とその評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 ①適正温度/オンオフ時間の策定 ②機械設備オンオフ時間の策定 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備	基準年度より売上が減少しておりますが、異常気象による気温の上昇により空調の使用頻度が高まり、電力使用量の削減には至りませんでした。営業車のエコ運転や小まめなオイル交換整備により燃料の削減ができました。
	次年度の取組内容
	未だ物価高、原油高にあり、化石燃料の値上げやゴム原料の値上げ等社会的にもマイナスな要因ばかりです。水光熱費、燃料費の削減に取り組まなければなりません。今年度の実績を踏まえ次年度も取り組みたいと考えます。
2. 廃棄物排出量の削減 ①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③産廃業者との契約書の確認 ④裏紙使用ルールの徹底	売上減少にも関わらず、産業廃棄物量の増大となってしまいました。経年劣化したゴムの端材の処分が原因と思われる。
	次年度の取組内容
	ゴムくずの削減に注力したいと考えます。また、ゴム加工端材の使用を強化して産業廃棄物の削減に取り組んで参ります。
3. 水資源投入量の削減 ①毎月のメータの確認(漏水防止) ②節水表示(手洗い場・トイレ) ③トイレの節水	売上減少に伴い、ウォータージェット加工機による加工が減少した為、わずかですが基準年度より水道量の削減ができました。
	次年度の取組内容
	今後も漏水していないかメータ器の確認を実施し、製品の加工内容の振り分けを行い、水道量の削減に取り組めます。また、金銭的なことですが、ロッター加工機等の導入を視野に入れて追々検討し水道量の削減につなげたいと思います。
4. 混合廃棄物の削減 ①端材の製品化 ②購入量の把握 ③端材転用の意識付け	経年劣化したゴムの廃棄により、基準年度より混合廃棄物量が増えてしまいました。まだプラスチック製品、ゴムの端材等の転用が進んでいない状況です。 ※1m ³ /300kgにて換算
	次年度の取組内容
	次年度におきましても滞留している材料の細分化を行い、少しでも滞留在庫を減らせるようにしたいと思います。また端材の再利用についてゴムくずの判別ルールを検討し、ゴムくずの削減につながるようにしたいと思いますと考えております。

6. 環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
騒音規制法	特定施設の届出	遵法
振動規制法	特定施設の届出	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・保存及び交 付状況報告	遵法
消防法	消防設備の点検の実施、消防計 画の策定、点検等の履歴の保存	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。
尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

7. 代表者による全体の評価と見直し・指示

未だ物価高、原油高により化石燃料・電気・水道・ゴム原料・半導体不足や流通不信等による価格高騰が続いております。今期の結果では売上減少に伴い、ガソリン燃料の削減とわずかですがウォータージェット製作品の減少により水道量の削減・CO2削減ができたと思われます。今後、ウォータージェット加工機の稼働により水道量の削減はかなり厳しいと思われます。
今後の取り組みとしてゴムの端材の有効活用により産業廃棄物の削減に注力していきたいと思ひます。現場社員の意見を中心にゴムくずの判別ルールを考え、少しでも産業廃棄物の削減ができたらと考えております。
また、電気使用量の削減につきましても空調の温度管理や照明のON/OFF管理を徹底し、更なるCO2削減につながるよう考えていきたいと考えております。